

萬葉集に於ける不滅の心
久利お徳の世の如

6

万葉集に於ける不滅の心
制約される人向の心緒を率直に抒いた言葉
万葉集に於ける不滅の心

土屋文明

1111 10

1

吾々にはただ漫然と萬葉集をば全體として不
滅的なるものと感心して居る。これは萬葉集に對
する吾々の立場が寧ろささるるのであり。吾々
は初めから萬葉集を信じてかかつて居る。
その不滅なるものだけを見るやうな態度が自然
に作られる仕舞つて居る。これは極端に偏狭
な又固陋な態度でありながら、吾々は事實をさ
ら

ふふ、風は萬葉集に導き入れられ、來たのである。
それから、實をいふと、課題の如きものには答案
を作らざる格好のふいふものがあるのである。
勿論吾々として、萬葉集中のどの位の部
分が真に永久的な価値を有らぬのでありうと
いふやうな疑念は屢々念頭を去來する。けれど
どもさう云ふ時、試に他の歌集を手にして見ると、
即古今集とか新古今集とものやうなものを手
にしてみると見ると、思は此の疑念は霧散するのが常
である。萬葉集全體が不滅的存するものであると